

資料 1
平成 28 年 1 月 28 日 (木)
平成 27 年度 第 5 回 富士見市健康づくり審議会

「健康ライフ☆ふじみ（富士見市健康増進計画・食育推進計画）（案）」に対する
意見への対応案

平成 28 年 月 日
健康増進センター

富士見市は「健康ライフ☆ふじみ（富士見市健康増進計画・食育推進計画）（案）」に対する意見の募集を、平成 27 年 12 月 7 日から平成 28 年 1 月 6 日まで行いました。
その結果、19 件のご意見をいただきました。お寄せいただいたご意見と当該意見に対する富士見市の考えは下記のとおりです。

パブリックコメント実施方法

- ・ 募集期間 平成 27 年 12 月 7 日～平成 28 年 1 月 6 日
- ・ 告知方法 広報ふじみ 市役所ホームページ
- ・ 意見提出方法 郵送、持参、ファックス、電子メール

番号	意見概要	対応方針	市の考え方
1	49 頁「2. 地域に根ざした食育の推進(3) 地産地消の推進」 地産地消に関心はあるが、最寄りのスーパーや店に行っても富士見市産の農作物はほとんど置いていない。たいてい、安売りの北海道産や千葉産が多い。これでは地産地消ができない。「つきいち」は市役所を使った地元野菜の販売だが、市役所から遠い地区はメリットが無い。各地区の公民館においても「つきいち」を開催し地元農産物の入手をより簡単にすべきでしょう。富士見市の特産のカブなどを活用した、特産品の開発も検討したいです。長野の特産の野沢菜はカブの一種で葉を漬物に利用しています。富士見市のカブも「富士見菜」(仮称)などとして特産品にできないでしょうか。カブにこだわり和洋のたくさんのカブ品種が栽培されるように特産品育成の政策も有効でしょう。さいたま市は洋野菜を特産に	原文の内容で対応し、貴重なご意見として承ります。	現在、市内スーパー等においても富士見市産の農産物の販売を行っている店舗もございますが、地産地消をより一層推進するためには、富士見市産の農産物の認知度を向上させる機会の確保が必要と考えます。 その一つの方法としては、ご指摘いただいた方法も有効であると考えますが、一方、富士見市産の農産物の供給体制の確保も課題であると考えます。 ご意見の内容につきましては、今後計画を推進する中で参考とさせていただきます。より多くの市民の皆様には富士見市産の農産物を知っていただくとともに、市民の皆様におかれましては地産地消に関する取組へのご協力をお願いしたいと考えています。

	<p>育てていますが、これに対して富士見市では和野菜ではいかがでしょう。(江戸野菜、京野菜などたくさんあります。)食育と農産振興がきちんと連動すれば、富士見市民が地元野菜と選んで食べるようになるでしょう。</p>		
2	<p>8頁2行目「悪性新生物」 初出のこの部分のみ「悪性新生物(がん)」と丸括弧で補足するか、用語解説にて説明した方がよいと思います。</p>	<p>文言を追加します。</p>	<p>ご指摘のとおり初出の部分に「悪性新生物(がん)」と表記を追加します。</p>
3	<p>9頁「がん検診受診率」グラフ 特に、「胃がん」2.5%については、「富士見市健康増進計画策定のためのアンケート調査 調査報告書」問9の胃がん検診を「毎年受けている」24.9%との結果とあまりに差異が生じており、市民の受診の実態とは乖離していると思います。記載の受診率に反映されない受診実態があるのではないのでしょうか。これを「富士見市民は2.5%しか胃がん検診を受けていない」と誤解されぬよう、注記を入れるなどの必要があります(分母と分子の説明)。当市は企業に勤務する人が多いベッドタウンですから、職場の検診において受診する市民も多いと思います。例えば、胃部X線又は内視鏡検査が含まれる協会けんぽ「生活習慣病予防健診」の受診率は、埼玉・東京では36%前後あります(全国健康保険協会 平成25年度 事業年報)。被扶養者の特定健診においても、病院によってはオプションの胃内視鏡検査を用意しています。また、従業員に人間ドックの補助をしている企業は、正職員で44.7%、パートで20.2%あります(厚労省 平成23年 雇用の構造に関する実態調査)。なお、市の国保人間ドックの受診者数(平成25年度市決算1,1</p>	<p>注記の追加をします。</p>	<p>対象者は、「人口から就労者人口を引いて農林漁業従事者を足したもの(厚生労働省報告書「我が国におけるがん検診事業評価の在り方について」(平成20年3月)で提案された方法により算出)」、受診者は「市で行った各々のがん検診受診者で人間ドックや企業の健診受診者は含んでいない」、受診率は「受診者数/対象者数×100で算出している」旨を注記します。</p>

	36人)も、健康増進センター集団検診分の胃がん検診受診者数(同599人)を上回っています。		
4	17頁1行目「食事バランスガイド」 知らなかった人が多いので、用語解説にて説明した方がよいと思います。	原文のとおりとし、トピックスの形で説明を追加します。	平成17年に厚生労働省と農林水産省から提示されましたが、市のアンケートにおいても「言葉も内容も知らなかった」「言葉は知っていたが、内容は知らなかった」と答えた方が合わせて6割以上もいたため、トピックスの形で説明を追加します。
5	48頁「(3)成人・高齢者への食育の推進」の「薄味を心がけましょう」 食育施策としては、「薄味を心がけ、素材の持ち味やうま味を楽しみましょう」といった表現がよいと思います。病気にならないためだけの薄味(忍耐の減塩)ではなく、食生活を豊かにするためにも薄味(楽しい減塩)がよいという立場から。	文言を追加します。	ご指摘の内容のとおり「薄味を心がけ、素材の持ち味やうま味を楽しみましょう。」を追加します。
6	49頁「(3)地産地消の推進」の「地元産食材の供給体制の整備に努めます」 市役所の「つきいち」に来場する市民は、もともと地産地消との接点が多い市民とも考えられます。市役所周辺は、地場産品ショップ「ゆい」や、ららぽーと内にも地産地消をテーマにしたJAの店舗もあり、また、農地・農家との共存するエリアですので、庭先の小規模な直売所も多くあります。そして、「つきいち」は平日昼の開催ですので、これに来場できる方は、庭先直売所の限られた営業時間にアクセスが可能といえます。これからは、地産地消と接点が少なかった住宅密集地や、平日昼に買い物ができない共働き世帯・若年単身世帯にも訴求するよう、駅に近い市街地での休日に重点を移して「つきいち」を展開していくことも考えるべきではないでしょうか。	原文の内容で対応し、貴重なご意見として承ります。	地産地消をより一層推進するためには、富士見市産の農産物の認知度を向上させる機会の確保が必要と考えます。 その一つの方法としては、ご指摘いただいた方法も有効であると考えますが、一方、富士見市産の農産物の供給体制の確保も課題であると考えます。 ご意見の内容につきましては、今後計画を推進する中で参考とさせていただきます。より多くの市民の皆様にご協力をお願いしたいと考えています。

7	<p>5 2 頁「事業の取組状況」表</p> <p>市のサイクリングコースも、ここに列挙されるに十分な目的（同コース管理規則第1条）・実績・規模を有する事業と思われる。</p>	<p>「事業の取組状況」に追加します。</p>	<p>「事業の取組状況」に「サイクリングコースの利用促進」を追加します。</p>
8	<p>5 3 頁「1. 運動習慣づくりの推進」の「学校や公共施設などの既存の施設を活用し、スポーツや運動習慣づくりの促進を図ります」</p> <p>活用する施設に「道路」も加えた方がいいと思います。埼玉県のパス情報サービス「よん de パス」でも使われている NFC 機能に対応したステッカーを街路灯の支柱等の道路施設に貼付し、ウォーキング等の道路での運動習慣づくりに役に立つ情報や、周辺の地域資源の情報を提供するサイトに誘導すれば、身近な道路の「運動施設としての」魅力や利便性を高めることができるかもしれません。また、サイクリングコースや歩道でランニングに取り組んでいる人を多く見ますので、通常の自転車歩行者との共存環境の整備も課題になってくるかと思えます。</p>	<p>「行政・関係機関が取り組むこと」に、追加します。</p>	<p>「行政・関係機関が取り組むこと」に「様々な情報を掲載した「観光アプリ」等を整備し、地域資源を活用した運動習慣づくりの促進を図ります。」と追加します。</p>
9	<p>5 4 頁「3. 生活習慣病予防など健康づくりのための運動機会の定着の推進」</p> <p>「買い物やお出かけに自転車を活用してみましよう」といった、自転車に関する文章が欲しいです。当市は、幹線道路や大きな駐車場を持つ商業施設の整備が進み、マイカーで移動する家族連れが多いまちとなっています。この子連れの車による移動をいきなり歩行に代えるよりは、荷物や子どもを載せることができる自転車移動の方がより持続的に取り組みやすいかと思えます。当市の地域資源（商店、農業、歴史・文化、レジャー等）は、ショッピングモー</p>	<p>文言を追加します。</p>	<p>少し遠い距離なども自動車ではなく自転車を利用することで、健康づくりに大いに役立つものと考え、自転車について文言を追加し「通勤や家事など日常生活の中で、意識して歩くことや自転車に乗ることなど、身体を動かす機会をつくりましょう。」と変更します。</p>

	<p>ルのようにコンパクトに一か所に集約されているわけではなく、広く点在しており、その点と点との歩行による「ハシゴ」は難しいですが、自転車によるハシゴは可能な距離です。車窓から見る風景は視覚的なものでしかありませんが、自転車であれば、後車のクラクションや大型駐車場の有無を気にせず立ち止まり、五感の作用全てで点と点の間のまちを体感できます。このように自転車は、当市の最近の市民像やまちの特性にマッチした交通用具かつ運動用具であり、健康に関する諸施策においても特に活用を意識すべきツールだと思います。</p>		
10	<p>54頁「4. 高齢者の身体活動の推進」の「運動機能や筋力の低下を防ぐため」</p> <p>国の「健康日本21（第2次）」は、ロコモティブシンドローム（運動器症候群）の予防（ロコモ予防）と、この用語の認知度向上を掲げているので、当市もこの用語を使った方がいいと思います。</p>	<p>原文のとおりとし、トピックスの形で説明を追加します。</p>	<p>ご指摘のとおりトピックスの形で説明を追加します。</p>
11	<p>59頁「(1) 健康づくりの推進」の「市の広報誌やホームページ等を活用した健康づくりや、食に関する情報の発信を行います」</p> <p>広報ふじみ「地元食材で！簡単レシピ」はとても良い連載だと思うので、興味を持った方がバックナンバーを閲覧しやすいように、HPにおいて1か所にまとめてはどうでしょうか。広報の他の連載では「歴史探訪ふじみ・発見！」がそのようになっています。また、「地元食材 de 簡単レシピコンテスト」等の企画、「キラリシンポジウム 富士見の農業」「ハイブリッド和菓子を共同開発」等のニュース、学校給食センターの「今月の給食メニューレシピ」「おたよりトマト」、これらも食育特集として取りまとめるとより良いと思います。これらバックナ</p>	<p>原文の内容で対応し、貴重なご意見として承ります。</p>	<p>ご提案いただいた具体的な取組については、計画を推進する中で参考にさせていただきます。</p>

	ンバーも東になれば、「広報ふじみ web 増刊号 食育ダイジェスト」と称して、通常の広報ふじみも掲載している無料アプリ「i 広報紙」に展開しても面白いのではないのでしょうか。買い物や料理で参照するには、PC よりもスマホ・タブレットの方が便利なので。		
1 2	60 頁「(3) 各種健診 (検診) の実施」の「健診及びがん検診の受診率向上に向けて、受診の機会を提供します」 事業主を通じて富士見市民に交付する「住民税特別徴収税額の決定通知書 (納税義務者用)」の裏面等に、検診を PR する文言を加えてはどうでしょうか。「市のがん検診・成人歯科健診は、お勤めの方と被扶養者の方も受診いただけます。特定健診との同時受診も可能な医療機関もあります。詳しくは広報ふじみ・市 HP で」など。	原文の内容で対応し、貴重なご意見として承ります。	がん検診の PR については、60 頁「(3) 各種健診 (検診) の実施」の「各種健診 (検診) や健康教育など様々な機会を通じ、がん検診の受診方法やがんの予防について、知識の普及啓発を図ります。」に基づいて推進していきます。
1 3	60 頁「(3) 各種健診 (検診) の実施」の「富士見市国民健康保険加入者に対して、特定健診及び特定保健指導を行います」 国保特定健診対象者でパート勤務をしている人の中には、労働安全衛生法によるものや職場独自の健診を受診している人もいます。綾瀬市では、これら職場健診が国保の特定健診の基本的な健診項目を満たす場合には、その健診結果を市に提出した人に記念品を交付し、特定保健指導を実施しています。これを参考に、当市が平成 27 年度に実施した「国保の特定健診健康グッズのプレゼント」が継続されるようであれば、職場健診結果提出者もプレゼント抽選の対象とし、職場健診を特定保健指導につなげてはどうでしょうか。	原文の内容で対応し、貴重なご意見として承ります。	今後の国民健康保険の保険事業の取組の中で、効果的な PR 方法等を検討していきます。
1 4	63 頁「1. こころの健康についての理解促進」の『こころの体温計』を活用しまし	原文の内容で対応し、	ご提案いただいた「ストレスチェック」は、専門職によるストレスチェッ

	<p>よう」</p> <p>改正労働安全衛生法66条の10により導入された「ストレスチェック」も活用する対象に加えてはどうか。</p>	<p>貴重なご意見として承ります。</p>	<p>ク、対象者への説明・通知、面接指導など労働者を雇用する事業者の義務とされているため、本計画においては原文の内容とします</p>
15	<p>63頁「2. 児童生徒のこころの悩みや不安に対する相談の充実」の「睡眠・休養を適切にとるよう心がけましょう」</p> <p>厚生省の「健康づくりのための睡眠指針2014」は、改定にあたり、「寝床に入ってから携帯電話、メールやゲームなどに熱中すると、目が覚めてしまい、さらに、就床後に、長時間、光の刺激が入ることで覚醒を助長することになる」との注意を追加しました。スマートフォンでの就寝前のメール、SNS、共同で攻略するオンラインゲームは、相手の睡眠も阻害してしまうことを念頭に、「あなたと友達の健康のため、寝る〇時間前にはやめよう」といった呼びかけも必要と思います。</p>	<p>原文の内容で対応し、貴重なご意見として承ります。</p>	<p>ご指摘のご意見は、「睡眠・休養を適切にとるよう心がけましょう」という文言の中に広く含める形で記載しています。厚生労働省から示されている「健康づくりのための睡眠指針2014」に則り、ご提案いただいた具体的な取組については、計画を推進する中で参考にさせていただきます。</p>
16	<p>67頁「2. 乳幼児のむし歯予防と口腔機能発達支援の推進」</p> <p>消費者庁、国民生活センターの平成25年3月28日付け合同リリース「乳幼児の歯ブラシによる事故に注意！」のとおり、歯みがき中の喉突き事故を防止する対策も必要かと思えます。</p>	<p>原文の内容で対応し、貴重なご意見として承ります。</p>	<p>乳幼児健診にて、子どもの発達に応じた歯科保健指導と生活全般における事故予防についてお伝えしており、さらに乳児訪問等でも、リーフレット等を活用しながら説明しています。</p>
17	<p>68頁「3. 児童生徒の歯と口腔の健康づくり」</p> <p>埼玉県歯科口腔保健推進計画10頁14行目は、「今後追加を検討する取組」として、「フッ化物配合歯みがき剤及びフッ化物洗口事業の普及促進」を掲げています（なお、県民コメント意見募集に際して公表された同（第2次）案では、「行っていく取組」として掲げています）。このうち、児童生徒のフッ化物配合歯みがき剤の利用について</p>	<p>原文の内容で対応し、貴重なご意見として承ります。</p>	<p>フッ化物配合の歯みがき剤の利用については、「富士見市歯科口腔保健推進計画～歯っぴーライフ☆ふじみ～」の中で、乳幼児期、学齢期、成人期において、定期的な利用を推進していきます。</p>

	は、家庭でも手軽に取り組めると思いますので、本項目に加えてはどうでしょうか。		
18	<p>72頁下から11行目「健康に関する正しい知識・情報の提供」</p> <p>「食後すぐに歯をみがくのは良くない」という考え方が極端に一般化されて新聞やテレビで報道されてしまったため、日本小児歯科学会が、学校における昼食後の歯みがきに理解と協力が得られるよう、「食後の歯みがきについて」というリリースを出して誤解の払拭に努めています。このように、正しい情報を出すと期待されているメディアが必ずしも正しい情報（ないし正しく理解される情報）を出しているとは限らない、というメディアリテラシーの観点も啓発していただければと思います。</p>	原文の内容で対応し、貴重なご意見として承ります。	ご指摘のご意見は、「第5節歯と口腔の健康」の分野全体において、歯みがきの仕方を含めた口腔衛生・歯科口腔保健の知識の普及啓発として推進していきます。
19	<p>「地元産食材の利用」</p> <p>心がけている人が多い反面、地元の店やスーパーではほとんど入手不能。農家の庭先の無人スタンドが人気です。</p> <p>びん沼の富士見市産の味噌も店に行かねば入手できない。</p> <p>地元産農産物の流通を行政として支援すべきです。（買物弱者が増加中）</p> <p>① つきいち→市役所だけでなく、公民館を会場に「つきいち」を開催し、野菜や味噌を身近なところで販売して下さい。</p> <p>②スーパーの扱いを増やす働きかけ</p> <p>野菜は北海道、千葉、茨城ばかりで埼玉の野菜は少しです。（アコレ水谷店）地元の野菜を購入したくてもできません。</p> <p>③ 行政支援による移動販売</p> <p>地元産の新鮮で安全な野菜を軽トラで運び、適正利益を乗せて市民に販売しませんか？（シルバー人材や、年金者組合の力も借りて）</p>	原文の内容で対応し、貴重なご意見として承ります。	<p>地産地消をより一層推進するためには、富士見市産の農産物の認知度を向上させる機会の確保が必要と考えます。</p> <p>その反面、農産物の供給体制の確保も必要な課題であり、新規就農者等後継者対策も同時に進めることが必要であると考えます。</p> <p>ご意見の内容につきましては、今後計画を推進する中で参考とさせていただきます。より多くの市民の皆様に富士見市産の農産物を知っていただくとともに、市民の皆様におかれましては地産地消に関する取組へのご協力をお願いしたいと考えています。</p>

